

目 次

(各項目が該当ページへのリンクとなっています。)

病害虫防除指針

7. 花き類・観葉植物の部

(1)花き類・観葉植物	185
(2)アスター	194
(3)カーネーション	195
(4)ガーベラ	198
(5)きく	199
(6)グラジオラス	205
(7)シクラメン	207
(8)宿根アスター／宿根スターチス	210
(9)シンビジウム	211
(10)すいせん	212
(11)スターチス	214
(12)ストック	216
(13)トルコギキョウ	218
(14)はぼたん	221
(15)ばら	222
(16)パンジー／ひまわり	226
(17)フリージア	227
(18)プリムラ／ペチュニア	229
(19)ゆり	230
(20)ラナンキュラス	232
(21)りんどう	233

花き類・観葉植物一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名											
						うどんこ病	灰色かび病	菌核病	黒斑病	白絹病	立枯病 (レシウム菌)	株腐病	茎腐病	立枯病	アザミウマ類	ハダニ類	
1	ショウチノスケフロアブル		普	1.フルチアニル 2.メバニピリム	U13、9	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	ピクシオDF		普	フェンピラザミン	17	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	ピシロックフロアブル		普	ピカルブトラゾクス	U17	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
4	ポトキラー水和剤		-	バチルス ズブチリス	BM2	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	ポリオキシソAL水溶剤		普	ポリオキシソ	19	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-
6	モンカットフロアブル40		普	フルトラニル	7	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
7	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-
8	リゾレックス粉剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

花き類・観葉植物(カーネーションを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						うどんこ病
1	モレストン水和剤		普	キノキサリン系	E:UN、 F:M10	○

花き類・観葉植物(きく、トルコギキョウを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						灰色かび病	ア立枯病 (レゾクトニ)
1	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-
2	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11、4	-	○

【*1】1.アゾキシストロピン 2.メタラキシル及びメタラキシルM

花き類・観葉植物(きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジーを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	うどんこ病	ハダニ類	灰色かび病
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○

花き類・観葉植物(きく、ゆり、チューリップ、りんどうを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	灰色かび病
1	アフエットフロアブル		普	ベンチオピラド	7	○	

花き類・観葉植物(きく、宿根かすみそう、りんどうを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アブラムシ類	うどんこ病
1	ピリカット乳剤		普	ジフルメトリム	39	○	○

花き類・観葉植物(きくを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	疫病
1	オロンディスウルトラSC		普	1.オキサチアピプロリン 2.マンジプロバミド	49,40	-	○
2	カリグリーン		普	炭酸水素カリウム	NC	○	-

花き類・観葉植物(きんせんか、ホワイトレースフラワーを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	灰色かび病
1	セイビアーフロアブル20		普	フルジオキシニル	12	○	

花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						菌核病	
1	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	

花き類・観葉植物(ばら、きく、チューリップ、ゆり、りんどうを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	斑点病
1	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	○

花き類・観葉植物(ばら、きく、りんどう、ゆり、トルコギキョウを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	
1	バレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	

花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						うどんこ病	灰色かび病
1	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-
2	ミギワ10フロアブル		普	イプルフエノキン	52	-	○

花き類・観葉植物(ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどうを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						灰色 かび 病		
1	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○		

花き類・観葉植物(ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						茎 腐 病	苗 立 枯 病	立 枯 病
1	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	○

花き類・観葉植物(ひまわり、ゼラニウムを除く)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						灰色 かび 病		
1	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	○		

花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培)一殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						疫 病		
1	オラクル顆粒水和剤		普	アミスルプロム	21	○		

花き類・観葉植物一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																
						オオタバコガ	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	アザミウマ類	アブラムシ類	コナジラミ類	ハダニ類	アオムシ	バッタ類	ハマキムシ類	マメハモグリバエ	クロバネキノコバエ類	カタツムリ類	ナメクジ類	うどんこ病		
1	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメキシサム	4A	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アフアーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	エコピタ液剤		普	還元澱粉糖化物	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
4	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	サンクリスタル乳剤		普	脂肪酸グリセリド	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
6	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
7	ダニオーテフロアブル		普	アシノナピル	33	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	ダニサラバフロアブル		普	シフルメトフェン	25A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	ダブルシューターSE	抑制	普	1.脂肪酸グリセリド 2.スピノサド	5	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	ダブルフェースフロアブル		普	1.ピフルプミド 2.フェンピロキシメート	25B、21A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	チェス顆粒水和剤		普	ピメトロジン	9B	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	トリガード液剤		普	シロマジン	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
14	ナメクリーン3		普	メタアルデヒド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
15	ニッソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A、F:39	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	バロックフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	プレオフロアブル		普	ピリダリル	UN	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	マイキラーL		普	メタアルデヒド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
21	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	ヨーバルフロアブル		普	テトラニプロール	28	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23	粘着くん液剤		普	デンブン	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* マラソン乳剤は、商品によって花き類・観葉植物のアザミウマ類への登録の有/無が異なるので注意する。

花き類・観葉植物(カーネーション、きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						類ハダニ
1	ピラニカEW		劇	テブフェンピラド	21A	○

花き類・観葉植物(ガーベラを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アザミウマ類	ハダニ類
1	アグリメック	抑制	劇	アバメクテン	6	○	○

花き類・観葉植物(きく、ガーベラを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ムアシブ類ラ	ラコミナ類ジ
1	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○
2	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○

花き類・観葉植物(きく、きんせんかを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ムアシブ類ラ
1	ベストガード粒剤		普	ニテンピラム	4A	○

花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						ハダニ類	アミザカミウキマイロ	ヨトウムシ類	アザミウマ類
1	オンコル粒剤5		普	ベンフラカルブ	1A	-	-	-	○
2	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	○	○	-

花き類・観葉植物(きく、ばら、ペチュニア、レザーファンを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ムアシブ類	ラ
1	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	

花き類・観葉植物(きく、りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						オオタバコガ	ハスモンヨトウ
1	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	○

花き類・観葉植物(きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						アザミウマ類	アブラムシ類	ヨトウムシ類
1	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○	○	○

花き類・観葉植物(きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ネコブセンチュウ	ネダニ類
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	-	○	-	-	-	-
3	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	○	○	-	-	-
4	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	○	○	-	-	-
5	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	-	-	-	-	○	-	-
6	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	○	-	○	-	-
7	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	○	○
8	マッチ乳剤	抑制	普	ルフェスロン	15	-	○	-	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アザミウマ類	アブラムシ類
1	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○

花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						アブラムシ類
1	モスピランジェット	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○

花き類・観葉植物(はぼたんを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						カメムシ類	ハマキムシ類	ヨトウムシ類
1	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	○

花き類・観葉植物(ばら、きく、カーネーション、デルフィニウムを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	カネナイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	○

花き類・観葉植物(ばら、きく、プリムラ、シクラメン、ペゴニア、宿根かすみそうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アザミウマ類	ハダニ類
1	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	○	○

花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						コナジラミ類	アブラムシ類
1	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	○	○

花き類・観葉植物(りんどうを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						アザミウマ類	オオタバコガ	類ハモグリバエ	コナジラミ類	クバロバネキノ
1	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	○	○	○	○

花き類・観葉植物(施設栽培、ただし、カーネーション、ばらを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	ペンタック水和剤		普	ジエノクロル	2A	○

花き類・観葉植物(宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く)一殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アミザカミンウキマイロ	ハモグリバエ類
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアマトキサム	4A	○	○

花き類・観葉植物－アスター－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名	
						さび病	苗立枯病 (リゾクトニア菌)
1	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	○	-
2	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	○

花き類・観葉植物－アスター－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名
						ウリハムシ
1	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○

花き類・観葉植物－カーネーション－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病虫害雑草名										
						さび病	べと病	灰色かび病	炭疽病	黒星病	立枯病	斑点病	うどんこ病	根腐病	苗立枯病(リゾクトニア菌)	ハダニ類
1	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
2	タチガレン液剤		普	ヒドロキシソキサゾール	32	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
3	バシタック水和剤75		普	メプロニル	7	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	ポリオキシシンAL水溶剤		普	ポリオキシシン	19	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
5	モレスタン水和剤		普	キノキサリン系	I:UN F:M10	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○
6	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-

花き類・観葉植物－カーネーション－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						アブラムシ類	オオタバコガ	モモアカアブラムシ	タバコガ	ハダニ類	アザミウマ類	クロウリハムシ	ヨトウムシ
1	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-
3	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	-	○	-	-	-	-	-	-
4	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	-	-	○	-	-	-	-	-
5	カネマイトフロアブル		普	アセキノシル	20B	-	-	-	-	○	-	-	-
6	サンマイトフロアブル		劇	ピリダベン	21A	-	-	-	-	○	-	-	-
7	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	○	○	-
8	テルスターフロアブル	抑制	劇	ビフェントリン	3A	-	-	-	-	○	-	-	-
9	テルスター水和剤	抑制	普	ビフェントリン	3A	-	-	-	-	○	-	-	-
10	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	○	-	-	-	-	-	-	-
11	ピラニカEW		劇	テブフェンピラド	21A	-	-	-	-	○	-	-	-
12	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	-	-	-	-	○	-	-	○

花き類・観葉植物－カーネーション(施設栽培)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	ペンタック水和剤		普	ジエノクロル	2A	○

7-(3) カーネーション（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
斑点病	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 予防散布を重点に、一覧表を参照し散布する。	
立枯病 萎凋病	植付前 用土は土壤消毒を行う。 (土壤くん蒸剤の項、蒸気消毒の項参照) 生育期 植え替え直後には、適用薬剤で土壤灌注を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（フザリウム菌）である。 ・高温時に発生しやすく、土壤伝染する。 ・未熟な堆肥は使用しない。
茎腐病	植付前 用土は土壤消毒を行う。 (土壤くん蒸剤の項、蒸気消毒の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（リゾクトニア菌）である。 ・高温時に発生しやすく、土壤伝染する。
根腐病	植付前 用土は土壤消毒を行う。 (土壤くん蒸剤の項、蒸気消毒の項参照) 生育期 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 薬剤処理後、回復の見られない株は早期に処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（ピシウム菌）である。 ・定植直後に感染すると淡い黄緑色に葉色に変化する。根は淡褐色に腐敗し生育が停滞する。症状が進むと株全体が脱水症状になり枯死する。 ・ピシウム菌は水で媒介するため鉢物栽培では、マット吸水や底面吸水時には注意が必要である。また培土が過湿にならないような水管理が重要である。
アザミウマ類	生育期 1. 発生初期に適用薬剤を散布する。	(ミナミキイロアザミウマの防除対策の項、ミカンキイロアザミウマの防除対策の項、防虫ネットによる防除の項を参照)

花き類・観葉植物－ガーベラ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名	
						疫 病	
1	プレビクールN液剤		普	プロパモカルブ塩 酸塩	28	○	

花き類・観葉植物－ガーベラ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名								
						ア ザ ミ ウ マ 類	ト マ ト ハ モ グ リ バ エ	ハ ダ ニ 類	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ 幼 虫	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
1	アグリメック	抑制	劇	アバメクチン	6	○	○	○	-	-	-	-	-	-
2	アプロード水和剤		普	ブプロフェジン	16	-	-	-	○	-	-	-	-	-
3	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	○	○	○	-	-
4	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	○	○	○	-	-
5	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	○
6	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	-	-	-	-	○	○	-

花き類・観葉植物ーきくー殺菌剤

※農業の使用に際しては、必ず農業のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名											
						灰色かび病	白さび病	うどんこ病	さび病	べと病	炭疽病	褐斑病	黒斑病	黒星病	斑点細菌病	アブラムシ類	ハダニ類
1	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アントラコール顆粒水和剤		普	プロピネブ	M3	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	インプレッションクリア		-	バチルス アミロリク エファシエンス	BM2	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	カナメフロアブル		劇	インビルフルキサム	7	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	コロナフロアブル		普	硫黄	I:UN F:M2	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	サブロール乳剤		普	トリホリン	3	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	○
10	ジマンダイセンフロアブル		普	マンゼブ	M3	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-
12	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
13	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
14	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-
15	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
16	トリフミンジェット		劇	トリフルミゾール	3	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	トリフミン乳剤		普	トリフルミゾール	3	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	パレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	ピリカット乳剤		普	ジフルメトリム	39	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-
21	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
23	ポリオキシNAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	メジャーフロアブル		普	ピコキシストロピン	11	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
25	ユニフォーム粒剤		普	1.アゾキシストロピン 2.メタラキシル及びメ タラキシルM	11,4	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	ラリー乳剤		普	ミクロブタニル	3	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

7-(5) きく (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
黒斑病・褐斑病	生育期 例年の発病時期の20日前から7~10日おきに適用薬剤を散布する。	・両病害とも病原菌は同属の糸状菌(セプトリア菌)で、発病条件や症状は類似しており、区別が難しい。 黒斑病(学名 <i>Septoria chrysanthemella</i>) 褐斑病(学名 <i>Septoria obesa</i>) ・発病適温は24~28℃、多湿条件下で多発する。 ・降雨による跳ね上がりや飛沫により感染するため、露地栽培で発生が多い。 ・摘芯後雨が多かったり、高温の時には発病が早くなる。
白さび病	植付前 連作を避け、ほ場環境をよくする。 親株 1. 地下(冬至)芽を用いる。 2. 切り下株を用いる場合、地上部に残っている葉は全て取り除く。 育苗期 育苗中の被害葉は見つけ次第取り除く。 生育期 予防散布を重点に、葉裏に十分散布する。 発病時は3~4日おきに、適用薬剤を散布する。	・10℃以下でも感染する。発病適温は20℃前後で多湿条件下で多発する。 ・露地栽培では6~7月、9~11月頃に発生。施設栽培では11~4月頃発生が多くなる。 ・苗の温湯消毒については、福島県のマニュアルを参照する。
半身萎凋病	植付前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 3. 健全苗を用いる。 4. 発生したほ場の株は親株として使用しない。	・品種間差があるので、発病ほ場では発生品種の作付けを避ける。
フザリウム立枯病	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照)	・高温時に発生しやすく、土壌伝染する。
ピシウム立枯病	植付前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照)	・6~9月(発病適温は25~35℃)に多発し、土壌伝染する。
立枯病	植付前 挿し芽床、仮植床、定植床は土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項等参照)	・病原菌は糸状菌(リゾクトニア菌)である。 ・6~9月(発病適温は25~28℃)に多発し、土壌伝染する。
べと病	植付前 1. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 2. ほ場の排水を良好にする。 3. 窒素質肥料の多用を避ける。 生育期 1. 密植を避ける。 2. ハウス栽培では換気を十分に行う。 3. 被害葉は早期に除去する。 4. 発病しにくい品種を栽培する。	・発病適温は15~20℃で多湿条件下で多発する。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
斑点細菌病	生育期 1. 予防散布を行う。 2. ハウス栽培では換気を十分に行う。	・多湿条件が続くと発病しやすく、梅雨時期など好適条件では急激に進行し下葉から枯れ上がる。
ウイルス病 (CMV等)	生育期 1. 親株は防虫ネットで被覆する。 (防虫ネットの項参照) 2. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	・汁液やアブラムシ類により伝染する。 ・主な病原はCMVである。 ・感染しても大半の品種が無病徴であるが、葉に退緑斑紋、葉脈透化や軽いえそ斑紋や株の萎縮を生じる品種もある。
わい化病 (キクわい化ウイルス) ウイロイド :GSVd)	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 (抜き取り時に無病株の根と接触の恐れがある場合は地上部を刈り取る) 2. 汁液伝染する恐れがあるので、被害株に触れた器具や手で健全株に触れない。また、被害株に触れた器具は、資材消毒に登録のある薬剤で処理する。 (資材消毒の項参照) 3. 発生したほ場の株は親株として使用しない。	・摘蕾等・収穫作業による接触伝染、刃物伝染。 ・茎の節間が短縮し、草丈が短くなる。 ・葉は小型化し、色がわずかに淡くなる。 ・花が小型化したり、開花が早まることがある。 ・感染したさし穂は、発根不良となる。 ・県育成品種「小夏の風」は、わい化病に対し抵抗性を有する。
えそ病 (TSWV) 茎えそ病 (CSNV) えそ斑紋病 (INSV)	親株 防虫ネットで被覆するなどアザミウマ類の防除を行う。(防虫ネットの項参照) 生育期 1. 健全な苗を定植する。 2. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 3. 汁液伝染する恐れがあるので、被害株に触れた器具や手で健全株に触れない。また、被害株に触れた器具は、資材消毒に登録のある薬剤で処理する。 (資材消毒の項参照) 4. アザミウマ類の防除を行う。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照) 5. 周辺の雑草は本病の発生源となるため除去する。	・アザミウマ類により伝染する。 ・TSWVは多くの植物に感染する。 ・TSWV、CSNV、INSVとも葉にえそ輪紋、葉脈間の黄化・えそ、茎にえそ条斑を生じる。
ハガレセンチュウ	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照)	・露地栽培で発生が多く、雨やかん水によって下葉から上方へ移動する。
ネグサレセンチュウ	植付前 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) (ネグサレセンチュウの防除対策の項参照)	・ネグサレセンチュウが加害する作物を連作すると被害が拡大する。 ・被害の現れ方、定植後活着が悪く草丈が低くなるなど生育が不揃いになる。また、根が褐変する。 ・ネグサレセンチュウが多いほ場では、フザリウム菌やバーティシリウム菌等による土壌病害の発生を助長する。
カメムシ類 (カスミカメ類、ヒメナガカメムシ類)	生育期 1. 第1世代成虫発生期直前～発生初期にかけ適用薬剤を散布する。 2. ほ場周辺の除草を行う。	・幼成虫が新芽、蕾などを吸汁加害する。加害されると葉に小さな穴が空いたり、ひどい場合は葉切れ症状になる。 ・ウスモンミドリカスミカメは、越冬卵が4～5月頃にう化して6月に第1回の成虫が発生する。秋までに3～4世代を繰り返す。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
アワダチソウ ゲンバイ	生育期 1. 成・幼虫の発生期に適用薬剤を散布する。 2. 多くのキク科雑草に寄生し、発生源となるので、ほ場周辺の除草を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・成・幼虫の吸汁により葉にかすり状の脱色斑点が生じる。 ・セイトカアワダチソウやヨモギなど多くのキク科植物に寄生する。 ・大阪府の調査では、成虫の発生ピークは7月下旬と8月下旬、幼虫の発生ピークは8月上旬と下旬に認められている。
キクモンサビ ダニ	植付前 本虫が発生した親株から苗をとらない。	<ul style="list-style-type: none"> ・未展開葉から展開間もない葉の裏面に多く寄生する。 ・越冬は当時芽内で行われ、5月頃から発生が多くなる。 ・施設栽培など雨の当たらない条件下で発生しやすい。 ・加害された葉には、円形またはリング状の淡黄色斑を生じるほか、線状の斑紋や壊死斑を生じたりする（紋々病）

花き類・観葉植物ーグラジオラスー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						球 根 腐 敗 病	ポ ト リ チ ス 病	赤 斑 病
1	ホーマイ水和剤		普	1. チウラム 2. チオファネートメチル	M3、1	○	-	-
2	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	-	○	○

花き類・観葉植物ーグラジオラスー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						ア ザ ミ ウ マ 類
1	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○

7-(6) グラジオラス（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
球根腐敗病	植付前 1. 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 連作を避ける。 生育期 発病株は、早期に抜き取り処分する。	・適用病害名は球根腐敗病であるが、グラジオラスでの球根腐敗病という病名はない。球根腐敗病の適用薬剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌（糸状菌）に効果がある薬剤。フザリウム菌の病害名は乾腐病（フザリウム腐敗病）である。 ・貯蔵中の多湿条件で発生しやすい。
モザイク病 (CMV)	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 健全な苗を定植する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照）	・アブラムシ類により伝染する。 ・葉に緑色濃淡のモザイク症状を呈する。
アザミウマ類	植付前 適用薬剤で球根浸漬処理を行う。 生育期 被害茎葉は早めに刈り取り処分する。	（ミナミキイロアザミウマの防除対策の項、ミカンキイロアザミウマの防除対策の項を参照）
斑点病	生育期 被害茎葉に病原菌が残るため、被害茎葉は早めに刈り取りほ場外へ持ち出し処分する。	・降雨が多い年に多発するため注意が必要である。
赤斑病	生育期 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 被害茎葉に病原菌が残るため、ほ場外へ持ち出し処分する。	・降雨が多い年に多発するため注意が必要である。

花き類・観葉植物－シクラメン－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名			
						葉 腐 細菌 病	炭 疽 病	灰 色 か び 病	萎 凋 病
1	アグリマイシン－100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	-	-	-
2	キノドーフロアブル		普	有機銅	M1	○	○	-	-
3	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	○	-	-
4	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	-
5	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	-	○

花き類・観葉植物－シクラメン(施設栽培)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						炭 疽 病
1	ヘルシード乳剤		普	ペフラゾエート	3	○

花き類・観葉植物－シクラメン－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						ミ ミ ウ カ ン キ イ ロ ア ザ	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ ダ ニ 類
1	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	-	○	○
2	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	-

7-(7) シクラメン (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
萎凋病	播種前・植替え前 <ol style="list-style-type: none"> 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 3. 発病株の採種は避ける。 生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 枯れ葉をピンセットで取る。 2. 発病株は早期に処分する。 3. 植替え直後には、適用薬剤で土壌灌注を行う。 4. 土壌の過湿や過乾、施肥過剰は塊茎の割れを誘発し、病原菌が侵入しやすくなるため避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（フザリウム菌）である。 ・発病株の塊茎は、軟化腐敗しない。 ・本病の発病適温は25～30℃である。 ・本病は葉柄、塊茎、根の傷口から感染する。 ・発病部位に触れたピンセットは、その都度、塩化ベンザルコニウムに浸漬し消毒する。 ・発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。
軟腐病	播種前・植替え前 <ol style="list-style-type: none"> 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 枯れ葉をピンセットで取る。 2. 発病株は早期に処分する。 3. 枯れ葉や花蕾の除去、葉分け、植替え等の直後には適用薬剤を散布する。 4. 土壌の過湿や過乾、施肥過剰は塊茎の割れを誘発し、病原菌が侵入しやすくなるため避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発病株の塊茎は水浸状の腐敗を生じ、悪臭を放つ。 ・本病の発病適温は32～35℃である。 ・本病は株に生じた傷口から感染する。 ・発病部位に触れたピンセットは、その都度、塩化ベンザルコニウムに浸漬し消毒する。 ・発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。
葉腐細菌病	播種前・植替え前 <ol style="list-style-type: none"> 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 3. 発病株の採種は避ける。 生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 枯れ葉をピンセットで取る。 2. 発病株は早期に処分する。 3. 枯れ葉や花蕾の除去、葉分け、植替え等の直後には適用薬剤を散布し、土壌灌注も行う。 4. 土壌の過湿や過乾、施肥過剰は塊茎の割れを誘発し、病原菌が侵入しやすくなるため避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発病株の塊茎は、軟化腐敗しない。高温期に激発した場合は軟化腐敗する事もあるが、悪臭はない。 ・本病の発病適温は25～33℃である。 ・本病は葉柄、塊茎、根の傷口から感染する。 ・発病部位に触れたピンセットは、その都度、塩化ベンザルコニウムに浸漬し消毒する。 ・発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。
炭疽病	播種前・植替え前 <ol style="list-style-type: none"> 1. ベンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 2. 発病株の採種は避ける。 生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発病葉は早期に摘み取り、土中に埋めるまたは肥料袋等に詰めて密閉し枯死させてから処分する。 2. 予防効果のある適用薬剤を定期的に散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（コレトリウム菌）である。 ・発病適温は23～28℃である。 ・発病株に触れた後は、石鹼で手をよく洗う。 ・分生子は水跳ねによって飛散するため、底面吸水法などの植物体に直接水がかからない灌水方式は伝染を抑制する。 ・幼芽に感染すると黒褐色の芽枯れ症状になる。 ・鮭肉色を呈した粘性の分生子層を形成する。
灰色かび病	生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発病葉・花は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。 3. 日中は十分な換気を行い、暖房機の送風運転や循環扇を利用し結露の防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気伝染するため、被害部位や被害株をハウス外へ持ち出す。 ・90%以上の多湿、昼夜温の気温差があり植物が軟弱徒長している場合に発生しやすい。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農業を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
ピシウム根腐病	播種前・植替え前 1. 用土の消毒を行う。(蒸気消毒の項参照) 2. ペンチ、マット等の資材消毒を行う。(資材消毒の項参照) 生育期 1. 発病初期の株は適用薬剤を処理する。 2. 株全体が萎れた株は早期に処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌である。 ・生育初期に感染しても開花期以降に萎れ症状が発生する。 ・萎れ症状を呈する株の細根はほとんど腐敗・脱落する。維管束の褐変は認められない。 ・ピシウム菌は水で媒介するためマット吸水や底面吸水時には注意が必要である。また培土が過湿にならないような水管理が重要である。
えそ斑紋病 (INSV) TSWV	生育期 1. アザミウマ類の防除を行う。(野菜・花きのウイルス病防除対策の項、ミカンキイロアザミウマ防除対策の項) 2. ハウスの開口部を防虫ネットで覆う。(防虫ネットの項参照) 3. 発病株は伝染源になるので、早期に施設外に持ち出し、肥料袋等に詰めて密閉し枯死させてから処分する。 4. ハウス内および周辺の雑草を防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類により伝染する。 ・葉に輪紋症状を伴うえそが発生し、のち黄化、枯死する。 ・病徴だけでは INSV と TSWV の区別は困難である。 ・早期に感染すると被害が大きいため5、6、7月の防除が重要である。
ヨトウムシ類	(ハスモンヨトウの防除対策の項参照)	
ホコリダニ類	生育期 1. 新芽や蕾の奇形化や枯死が酷い株は、早期に施設外に持ち出し処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・シクラメンではシクラメンホコリダニやチャノホコリダニが寄生し被害を与える。 ・体長0.2~0.25mmで、初発時での肉眼による虫の発見は難しい。 ・未展開葉や蕾など暗く湿度の高い場所で繁殖する。 ・新しい葉の縁が内側に丸まる、新芽・花卉の奇形や枯死、花卉の変色等の被害症状が出る。ひどい場合には蕾が乾燥して干からびた状態となる。

花き類・観葉植物－宿根アスター－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名			
						ミカンキイロアザミウマ	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨメナスジハモグリバエ
1	アクトラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	○	-
2	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	○

花き類・観葉植物－宿根スターチス－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						コガネムシ類幼虫
1	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○

7-(9) シンビジウム（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
モザイク病 (CyMV、ORSV)	生育期 1. 発病株は早期に処分する。 2. 発病株に接触した刃物は第3 燐酸ナトリウムに10分以上浸漬処理または火炎(5秒)、煮沸(5分)による消毒を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・汁液、株分けなどにより伝染する。 ・CyMVは葉脈の間に多数の退色条斑や黄色条斑が現れ、褐色または黒色のえそ条斑やえそ斑点等が生じ生育が衰える。 ・ORSVは葉に激しい退色条斑や退色斑紋を生じ、あわせてえそ条斑が現れ、生育が抑えられる。
ナメクジ類	生育期 1. 花茎伸長期の花茎と蕾や花卉に被害を受けるため、被害時期前からメタアルデヒド等を含む薬剤をハウス内に散布する。 2. 通風が悪く湿度が高い場所を好むため、ハウス内に不要な鉢や資材等を放置しないようにする。 また、産卵期中心にハウス内外の除草を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・加害する主要な種として、ノハラナメクジ(体長25~30mm、背側が黒く模様がない。春と秋に産卵する。)、フタスジナメクジ(体長60mm、背側に黒の縦すじが入る。年1回3~6月に産卵。) ・夜行性であるが、被害を受けた株の茎葉に粘液で光った這い跡が残されているため、ナメクジ類による被害と確認できる。

花き類・観葉植物－すいせん－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						球 根 腐 敗 病
1	ホームイ水和剤		普	1. チウラム 2. チオファネートメチル	M3、1	○

7-(10) すいせん（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
球根腐敗病	植付前 <ol style="list-style-type: none"> 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 無病の球根を植え付ける。 4. 連作を避ける。 生育期 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 土壌の過湿や過乾は避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適用病害名は球根腐敗病であるが、スイセンでの球根腐敗病での病害名はない。スイセン球根腐敗病の適用薬剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌（糸状菌）に効果がある薬剤。フザリウム菌の病害名は乾腐病。

花き類・観葉植物－ステータス－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名			
						うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	ハダニ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○
2	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○	○	-	-
3	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	○	-	-

花き類・観葉植物－ステータス－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名	
						ヨトウムシ	コガネムシ類
1	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-
2	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	○

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

7-(11) スターチス（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
灰色かび病	生育期 1. 発病葉・花は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。 3. 暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。 4. 多湿時は暖房機を作動させて温度を確保し、強制的にハウス内の湿度を下げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬期保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
ウイルス病 (BBWV、CMV、 TuMV、CYVV)	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 健全な苗を定植する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類により伝染する。 ・BBWVは葉に軽い奇形(凹凸)を生じ、株全体が萎縮。CMVは茎に軽いえそ斑を生じる。TuMVは茎葉が奇形になり株全体が萎縮する。CYVVはえそ斑点がでる。また、複数のウイルスが混合感染する場合もある。
ウイルス病 (INSV)	育苗期、生育期 1. 育苗中からアザミウマ類の防除を徹底する。 2. ハウスの開口部は防虫ネットを張る。 3. 健全な株を定植する。 4. 発病株は早期に抜き取り処分する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項、防虫ネットによる防除の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類により伝染する。 ・葉の萎縮やえそ斑点が生じ、株全体が萎縮する。

花き類・観葉植物－ストック－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名
						苗 立 枯 病
1	ホームイ水和剤		普	1. チウラム 2. チオファネートメチル	M3、1	○

花き類・観葉植物－ストック－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名				
						コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ア オ ム シ	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類
1	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	○	-	-	-	-
2	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	-	-	-	-
3	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	-	-
4	オンコル粒剤5		普	ベンフラカルブ	1A	○	-	-	-	○
5	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	-	○	-	-
6	チューンアップ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	○	-	-	-	-
7	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	○	-	○	-	-
8	バシレックス水和剤	抑制	-	BT	11A	○	-	-	-	-
9	マブリック水和剤20	抑制	劇	フルバリネート	3A	○	-	-	-	-
10	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	○	○

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

7-(12) ストック（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前 1. 適用薬剤で種子消毒を行う。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 生育期 1. 発病初期に登録のある薬剤で処理を行う。 2. 枯死株は、早期に抜き取り処分する。	・病原菌は糸状菌（リゾクトニア菌）である。 ・高温多湿時に発生する。
菌核病	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。	・発病適温は15～20℃である。 ・多湿条件で発生しやすい。
灰色かび病	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. ハウス内の換気をはかり、湿度を下げる。 3. 暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。	・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬季保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
モザイク病 (TuMV、CMV)	生育期 1. 発病株は、早期に抜き取り処分する。 2. 幼苗期は寒冷紗で被覆する。 3. アブラムシ類の防除を徹底する。 (野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照)	・アブラムシ類により伝染する。 ・葉や花弁に淡黄色のモザイクやえそが認められ生育不良になる。
コナガ	(コナガの防除対策の項参照)	

花き類・観葉植物－トルコギキョウ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						炭疽病	斑点病	菌核病	灰色かび病
1	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	-	○	-	-
2	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	-	-	-
3	スコア顆粒水和剤		普	ジフェノコナゾール	3	-	○	-	-
4	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○	○	-
5	パレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	○	-	-
6	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	○	-	○
7	ポリオキシシンAL水溶剤		普	ポリオキシシン	19	-	○	-	-
8	メジャーフロアブル		普	ピコキシストロピン	11	-	○	-	-

花き類・観葉植物－トルコギキョウ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						ミカンキイロアザミウマ	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヒラズハナアザミウマ	アザミウマ類	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	○	○	-	-	-	-	-
2	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	○	-	-	-	-
3	ジェイエース粒剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	-	○	○	-	-
4	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	-	-	-	-	-	○	-
5	マトリックフロアブル	抑制	普	クロマフェノジド	18	-	-	-	-	-	-	-	○
6	モスピランジェット	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	○	-	-

7-(13) トルコギキョウ（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
灰色かび病	生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。 3. 多湿時は暖房機を作動させて温度を確保し、強制的にハウス内の湿度を下げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬期保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
斑点病	植付 健全な苗を定植する。 生育期 1. 施設内の通風及び換気に努める。 2. 発病を認めた場合は、発病葉を取り除いたのち適用薬剤を散布する。 3. 罹病株の残さは、施設外に持ち出し適切に処分する。 4. 多発ほ場では、内張ビニールや支柱等に分生子が付着し、次作の感染源となる可能性があるため、ハウス内の消毒を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（シュドサーコスポラ菌）である。 ・発生初期は、葉の表に退緑斑を生じ、後に葉の表裏に黒～灰色のすす状病斑が形成される。 ・病斑は下位葉を中心に発生した後、上位葉へと進展する。 ・本病は特に春から秋の多湿条件下で多発し、育苗期にも発生する。 ・病斑上に形成される分生子により感染が拡大する。 ・現在確認されている宿主はトルコギキョウのみである。
株腐病 根腐病 立枯病	植付前 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤、蒸気消毒の項参照） 生育期 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 枯死株は、早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・株腐病の病原菌は糸状菌（リゾクトニア菌）である。 ・菌の生育適温は30℃前後である。 ・根腐病の病原菌は糸状菌（ピシウム菌）である。 ・発病適温は25～30℃である。 ・立枯病の病原菌は糸状菌（フザリウム菌）である。 ・菌の生育適温は27～28℃である。 ・発病には品種間差がある。
青かび根腐病	植付前 1. 土壌消毒を行う。 2. 完熟堆肥を施用する。 生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈が短く萎凋・枯死する。根の所々が褐変するが症状が進むと根全体が褐変・腐敗する。また、地際部に青かびを生じることもある。
えそモザイク病（CMV） モザイク病（BBWV, BYMV）	植付 健全な苗を定植する。 生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類により伝染する。 ・CMVは新葉に軽いモザイクを生じ、頂葉のねじれが生じる。 ・BBWVは葉柄基部にアザミ状の条斑を生じる。 ・BYMVは葉にモザイクや退緑斑や輪紋やえそ斑点を生じる。また、複数のウイルスが混合感染する場合もある。
黄化えそ病（TSWV） えそ斑紋病（INSV） えそ輪紋病（IYSV）	植付 1. 健全な苗を定植する。 2. 自家育苗の場合、育苗初期からアザミウマ類防除を徹底する。 生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. アザミウマ類の防除を徹底する。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類により伝染する。 ・TSWV、INSV、IYSVとも上位葉の黄化を伴ったえそ斑点を生じ、下葉にえそ斑紋や退緑輪紋症状を示す。症状が進むと株が枯死する場合もある。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
葉巻病 (TYLCV)	植付 健全な苗を定植する。 生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. タバココナジラミの防除を行う。 (野菜・花きのウイルス病対策の項参照) (コナジラミ類防除対策の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミにより伝染する。 ・主にトマト、トルコギキョウに感染する。 ・節間の縮み及び株の萎縮、葉の小型化及び葉脈の隆起、葉表を内側にした巻きあがりなどを引き起こす。
アザミウマ類	(ミナミキイロアザミウマの防除対策の項、ミカンキイロアザミウマの防除対策の項参照)	

花き類・観葉植物－はぼたん－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名					
						ア ブ ラ ム シ 類	ア オ ム シ	カ メ ム シ 類	ハ マ キ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	コ ナ ガ
1	アディオオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	○	○	○	-
2	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	-	-	-	○

花き類・観葉植物－ばら－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						うどんこ病	さび病	べと病	灰色かび病	炭疽病	黒星病	アブラムシ類	チュウレンジハバチ	ハダニ類
1	アンビルフロアブル		普	ヘキサコナゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2	インプレッションクリア		-	パチルス アミロリクエファシエンス	BM2	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	-	-	-	-	-	○	-	-	-
4	サプロール乳剤		普	トリホリン	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-
5	サルバトーレME		普	テトラコナゾール	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-
6	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	-	-	○	-	○	○	○	○
7	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	○	○	○	○	○	-	-	-
8	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	-	-	-	○	-	-	-
9	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	-	-	-	○	-	-	-
10	トリフミンジェット		劇	トリフルミゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-	-
11	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	パレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	○	-	-	-	-	○	-	-	-
13	パンチョ顆粒水和剤		普	シフルフェナミド	U6	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○	-	-	○	-	○	-	-	-
15	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	-	-	-	○	-	-	-
16	モレスタン水和剤		普	キノキサリン系	I:UN、F:M10	○	-	-	-	-	-	-	-	-
17	ラリー乳剤		普	ミクロブタニル	3	○	-	-	-	-	○	-	-	-

花き類・観葉植物－ばら－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						アブラムシ類	イバラヒゲナガアブラムシ	ハダニ類	ミカンキイロアザミウマ	アザミウマ類	チュウレンジハバチ	コナジラミ類
1	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-
2	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-
3	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	○	-	-	-	-	-	-
4	コロマイト水和剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	○	-	-	-	-
5	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	○	-	-
6	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	-	-
7	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	-	-	○	-	-
8	テルスターフロアブル	抑制	劇	ビフェントリン	3A	-	-	○	-	-	-	-
9	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	○	-	○	-	○	-	-
10	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	○	-	-	○	-	-	○
11	モスピラン液剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物－ばら(施設栽培)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						ハダニ類
1	ペンタック水和剤		普	ジエノクロル	2A	○

7-(15) ばら (花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
枝枯病 腐らん病 すす枯病	生育期 1. 発病茎は切除し処分する。 2. 病患部を切り取った刃物は火炎等で消毒する。	・腐らん病は露地栽培で発生が多い。
べと病	生育期 1. 日中は十分な換気を行い、暖房機の送風運転や循環扇を利用し、通風をよくする。 2. 冬期は暖房を行い湿度を下げる。	・空気伝染する。 ・発病適温は18℃前後である。 ・低温多湿条件で分生子が形成されるが、湿度85%以下では感染しない。
うどんこ病	生育期 1. ハウス内の換気をはかり湿度を下げる。 2. 秋～春期は暖房を行い湿度を下げる。	・空気伝染する。 ・発病適温は18～25℃である。 特に、夜間の高湿度(90～99%)と低温(15～16℃)、また昼間のやや高温(26～27℃)と低湿度(40～70%)で発生しやすい。 ・施設栽培では、夏季の高温期を除いて、秋から翌春まで発生が多い。
灰色かび病	生育期 1. 日中は十分な換気を行い、暖房機の送風運転や循環扇を利用し、ハウス内の空気を動かし結露の防止を図る。 2. 多湿時は暖房機を作動させて温度を確保し、強制的にハウス内の湿度を下げる。また除湿機などがある場合は湿度を見て稼働させる。	・空気伝染する。 ・発病適温は20℃前後である。 ・多湿条件で発生しやすく、降雨が続く時期や冬期保温のためハウスを密閉する時期に発生が見られる。
根頭がんしゅ病	植え付け前 1. 健全苗を使用する。 2. 土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 生育期 1. 発病株は速やかに抜き取り処分する。	・病原菌は細菌である。 ・一般的には株元に異常な肥大が見られ、暗緑色や黒褐色のごつごつしたこぶになる。株の生育はしだいに衰えシュートの発生も少なくなる。
ペスタロチア病	生育期 1. 発病した茎葉は切除しハウス外へ持ち出す。 2. ハウス内の換気をはかり湿度を下げる。	・葉及び茎に発生する。特に茎では採花したあと(傷)から紫褐色～黒褐色に変色し枯死する。 ・発病適温30℃。 ・多湿時、病斑部にかん水や薬剤散布などの水滴がかかり、その飛沫で伝搬する。
根腐病	植え付け前 1. 健全苗を使用する。 2. 気温が上昇する直前の改植は避ける。 生育期 1. 発病株は速やかに抜き取り処分する。	・病原菌は糸状菌(ピシウム菌)である。 ・根を加害し、被害部は水浸状に褐変腐敗する。 ・発病は主に7～9月で、最低気温が20℃以上の時期に多い。発病適温は35℃付近である。 ・生育初期には株全体が生育不良になる。下葉は黄化・落葉し、晴天日には花蕾からしおれる。改植1年目に被害が発生しやすい。 ・夏期後半に感染した株は秋以降に症状が回復することがあり、低温期には被害はほとんど認められなくなるが、翌年の伝染源となるため注意する。

各論作成日:2025年11月5日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
疫病	植え付け前 1. 健全苗を使用する。 2. 苗は地面から隔離して管理する。 3. 発病後の改植時には、培地等の消毒を徹底する。 生育期 1. 発病株は速やかに抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌伝染性病害であるが、苗からの持ちこみにも注意する。 ・ 感染株は地際から茎が黒変し、下葉から黄変・落葉の後、枯死する。 ・ 菌の発育適温が25～26℃であるため、初夏～秋の高温期は急速に感染が拡大する。
ハダニ類	(ハダニ類防除薬剤の特性の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努める。
ミカンキイロアザミウマ	(ミカンキイロアザミウマの防除対策の項参照)	
カイガラムシ類	生育期 幼虫ふ化期に薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫ふ化期 イセリヤカイガラムシ：年2～3回発生、幼虫ふ化期 6月、8月、10月 チャノマルカイガラムシ：年1回発生、幼虫ふ化期 5月下旬～6月下旬
オオタバコガ	(オオタバコガ防除対策の項参照)	

花き類・観葉植物－パンジー－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						灰色かび病	根腐病	うどんこ病	ハダニ類	アブラムシ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	-	○	○	○
2	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	-	-

花き類・観葉植物－ひまわり－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						べと病	黒斑病	苗立枯病	灰色かび病	斑点病	空洞病
1	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	○	○	-	-	-
2	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	-	-	-	○	○	-
3	ドイツボルドーA		普	銅	M1	-	-	-	-	-	○

花き類・観葉植物－ひまわり－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						タバコガ
1	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○

花き類・観葉植物－ひまわり－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						カラス	ハト	ムクドリ	苗立枯病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	M1	○	○	○	○

花き類・観葉植物－フリージア－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名
						球 根 腐 敗 病
1	ホーマイ水和剤		普	1.チウラム 2.チオファネートメチル	M3、1	○

7-(17) フリージア（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
首腐病	植付前 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は細菌である。 ・多湿条件で発生しやすい。
球根腐敗病	植付前 <ol style="list-style-type: none"> 1. 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 連作を避ける。 4. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 生育期 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（フザリウム菌）である。

花き類・観葉植物－プリムラ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	ハダニ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○

花き類・観葉植物－ペチュニア－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	ナメクジ類	ハダニ類
1	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	○	○	○	○

花き類・観葉植物－ペチュニア－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日：2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						アブラムシ類
1	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○
2	モスピラン液剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○

花き類・観葉植物－ゆり－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						葉枯病	灰色かび病	茎腐病	鱗茎さび症	茎腐症（リゾープス菌による）	球根腐敗病
1	ICボルドー66D		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	○	○	-	-	-	-
3	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	-	-	-	-
4	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	-	○	-	-	-
5	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	○	○	-	-	-	-
6	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	○	-
7	ホームイ水和剤		普	1.チウラム 2.チオファネートメチル	M3、1	-	-	-	-	-	○
8	ポリオキシシンAL水溶剤		普	ポリオキシシン	19	○	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物－ゆり－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						アブラムシ類	ネダニ類
1	ウララ50DF		普	フロニカミド	29	○	-
2	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	○
3	ネコナカットフロアブル	抑制	普	エトキサゾール	10B	-	○

7-(19) ゆり（花き類、花き類・観葉植物に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
球根腐敗症	植付前 1. 球根になるべく傷をつけないようにし、通風のよい比較的低温の所に貯蔵する。 2. 適用薬剤で球根消毒を行う。 3. 連作を避ける。 生育期 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・適用病害名は球根腐敗病であるが、ユリでの球根腐敗病での病害名はない。ユリ球根腐敗病の適用薬剤はフザリウム菌、リゾクトニア菌（糸状菌）に効果のある薬剤。フザリウム菌の病害名は乾腐病。リゾクトニア菌の病害名は株腐病である。
葉枯病	生育期 1. 密植を避け通風をよくする。 2. 発病株は早期に抜き取り処分する。 3. 降雨後の適用薬剤の散布を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌（ボトリチス菌）である。 ・空中湿度が高く、発病適温 20℃前後時に発生しやすい。 ・雨除け栽培をすると発生が少ない。
疫病	植付前 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤、蒸気消毒の項参照） 2. 排水不良地や降雨の多い年に発生しやすいことから、露地ほ場では排水対策を行う。 3. 連作を避ける。 生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 密植を避け通風をよくする。	<ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌である。 ・根腐を引き起こす。茎葉では、地際部茎が水浸状に腐敗し黒化して倒伏する。
ウイルス病 （CMV、ASGV、 LMV、LSV、 RTBV、TMV）	植付 健全な球根を定植する。 生育期 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. アブラムシ類の防除を徹底する。 （野菜・花きのウイルス病防除対策の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・主にアブラムシ類、汁液により伝染する。 ・CMVは新葉に軽い退緑のモザイクを生じる。ASGVは生育不良になる。LSVはほとんど葉に病徴が現れない。他のウイルスと重複感染していることが多い。TMVは葉にモザイク症状を示すが生育の影響は少ない。

花き類・観葉植物ーラナンキュラスー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						アザミウマ類
1	ファインセーブフロアブル	抑制	劇	フロメキン	34	○

花き類・観葉植物ーりんどうー殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						葉枯病	花腐菌核病	褐斑病	黒斑病	灰色かび病	アブラムシ類
1	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アフェットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	○	○	○	○	-
3	インダーフロアブル		普	フェンブコナゾール	3	○	○	-	-	-	-
4	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	○	-	-	-	-	-
5	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	○	○	-	-
6	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	-	○	-	-	-
7	バレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	○	-	○	-	-
8	ピリカット乳剤		普	ジフルメトリム	39	○	-	-	-	-	○
9	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	-	-	○	○	○	-
10	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	○	-	-	-	-
11	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	○	-	-	-	-	-

花き類・観葉植物ーりんどうー殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容・注意事項を確認してください。
更新年月日:2025/11/5

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						アザミウマ類	アブラムシ類	オオタバコガ	ナミハダニ	ハダニ類	ハモグリバエ類	ヒラズハナアザミウマ	リンドウホソハマキ
1	アディオフロアブル	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	○	○
2	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	○	-	-	-	○	-	-	○
3	スターマイトフロアブル		普	シエノピラフェン	25A	-	-	-	-	○	-	-	-
4	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	-	-	-	-	-	○	-
5	ダニゲッターフロアブル		普	スピロメシフェン	23	-	-	-	○	-	-	-	-
6	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	-	○	-	-	○	-	○
7	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	-	-	-	-	-	○	-
8	ノーモルト乳剤	抑制	普	テフルベンズロン	15	-	-	-	-	-	-	-	○
9	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	○	-	-	-	-	○
10	マイトコーネフロアブル		普	ビフェナゼート	20D	-	-	-	-	○	-	-	-
11	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	-	○